

令和5年度市民事業現場訪問(第91回市民事業専門委員会)報告書

- 1 日時 令和5年9月28日(木) 10時~15時10分
- 2 目的 水源環境保全・再生市民事業支援補助金を受け、活動している団体の活動現場を訪問し、意見を聴くことにより、活動の実態を把握する。
- 3 訪問先 次の2団体

団体名等	補助金実績等
特定非営利活動法人ファームパーク湘南 代表理事 佐藤 厚 訪問会場：法人休憩所（伊勢原市三ノ宮地区） 視察場所：里山林（ " ）	スタンドアップ部門 普及啓発・教育事業（R4~R5）R5申請額18.9万円 「里山林保全再生の普及啓発・教育事業」 上記以外の主な実績 間伐材の利活用促進事業（H29~R3） 森林の保全・再生事業（H24~H28）
特定非営利活動法人 東海大学地域環境ネットワーク 理事長 藤野 裕弘 訪問会場：法人事務所（平塚市北金目） 視察場所：鈴川（伊勢原市神戸）	スタンドアップ部門 普及啓発・教育事業（R5）R5申請額20万円 「初等中等教育における水源環境保全を踏まえた環境教育プログラムの実施」

- 4 出席者 5名（増田委員長、藤井副委員長、青砥委員、石本委員、小林委員）

5 概要

(1)特定非営利活動法人ファームパーク湘南

（継続団体 スタンドアップ部門/R5申請額 普及啓発・教育事業 18.9万円）

団体の作業休憩所にて、補助事業である里山林保全再生の普及啓発・教育事業について聴き取りを行い、その後、三ノ宮地区の植樹や山道づくりの様子を視察した。

【主な聴取内容】

- ・平成18年、団体設立当初は平塚市内を拠点としていたが、農園を基軸として伊勢原市に移動した。会員は20名弱である。
- ・農園活動以外に、団体では、SDGsに関する新聞記事等を持ち寄り、週1回会員どうしで話し合う勉強会も実施している。
- ・販売できる素材としてサカキやシキミ等を栽培し、資金作りにできないか検討している。
- ・当初5月に実施を予定していた里山イベント（山道づくり）は、団体の業務の関係で7月に行うこととした。里山イベントの参加者に対する広報は、農園参加者への声掛け、過去に団体の活動に参加した一般の方への電話・LINEによる連絡等を実施し、10名の参加を予定していたが、直前でやむを得ない事情が発生したため、中止となった。
- ・経験者研修としては、昨年度植樹現場における下草刈（大鎌使用）、山道づくりの事前準備、植樹苗の状況確認などを実施した。

【主な所感】

- ・「体験型講座」の開催など新たに取り入れての地域活動は素晴らしいことだと思う。この市民事業の取組みを近隣の方々に理解して頂ければと思う。
- ・数年前に植樹した木は大きなものは5メートル以上ほどにも育っているが、シカなどに食べられてなかなか成長できない木もあった。以前植樹した木は順調に成長している木も多く、その点では成果が出ている。
- ・里山整備に当たって、人が利用できるようにすることが大事である、との考えから入り込み用の道の整備に力を入れているという話が印象的だった。
- ・本来は子供たちのイベント参加を呼び掛けたいがヤマビル被害なども考慮する必要があるなど、運営上の苦勞が伺えた。
- ・新たな地域の課題を感じ取る力を備えているような代表者なので、まだまだ課題解決のためにやりたい事、やらねばならない事を見据えていらっしゃる様子に感心した。が、後に続く人、他の人を巻き込めるのかが課題だと思う。
- ・高い理想のもと、地道で丁寧な保全活動を行っており、好感が持てる。今後は、新たな会員や参加者の獲得を目指して、より持続的な活動に繋がるよう期待している。
- ・団体自身が説明していたように、将来的には山の所有者自身が山林の管理を出来るようになるのが理想だが、それが困難で山林に手が入らなくなって山が荒廃したために、水源環境保全税が導入された経緯がある。現実には所有者自身による山の管理は、今後とも困難ではないかと感じた。

(2) 特定非営利活動法人東海大学地域環境ネットワーク

(新規団体 スタンドアップ部門/R5 申請額 普及啓発・教育事業 20 万円)

団体事務所にて、補助事業である初等中等教育における水源環境保全を踏まえた環境教育プログラムの実施について聴き取りを行い、その後、親子川の観察会実施現場の鈴川を視察した。

【主な聴取内容】

- ・地域環境教育の実践は学生会員がメインで、伊勢原市比々多小学校以外にも沖縄県久米島における海岸ゴミ、静岡市清水区における興津川についての教育プログラム等も実施している。
- ・補助事業については、申請計画どおり、伊勢原市の自然環境と特産物の関係を中心とした環境出前授業を2回、川の生態系を学ぶ親子川の生物観察会2回を実施した。（※同日実施）
- ・対象は小1～6までの全児童とし、保護者を含め、第1回（8月）は10名、第2回（9月）は12名の計22名が参加。
- ・出前講座においては、①特産物の豆腐や地酒と大山の湧水や水源林との関係性、その大切さの説明をした後、②鈴川で生物採取・観察・スケッチを行った。さらに、③川のゴミにかかる問題の提示、自分たちができることとしての3Rの説明や、ペットボトルの繊維化実験も行った。（実施状況の映像を使用したプレゼンによる説明）
- ・①においては、ミズキ、コウゾ、ミツマタ、タケを教材として持参し、年輪を学んだり、コウゾやミツマタで和紙を作っていたことなど身近なものとの関わりを知ってもらうとともに、森林があることで、雨水が豊かな湧水となることを学んでもらった。

【主な所感】

- ・明確な理念と目的を持ち、環境教育プログラムの質や、教員、学生スタッフのスキルも非常に高いレベルの実践活動を行っており、大変感銘を受けた。今後も、活動の継続のみならず、より広がりのある取組みに繋がられるよう期待している。

- ・主な活動場所の川は学校に近く、水流もゆるやかで安全性にも問題なく適当である。小学生を対象とした時に大学生の年齢層の指導者は親しみが持てて良い結果が期待できる。
- ・活動内容は充実しているが、参加学校数、人数が少なく、もっと活動を周知して参加する学校が増えることが望ましい。
- ・伊勢原市立日比多小学校と連携した活動とのことであるが、この団体の発足時は平塚市の団体と関係があり広域な基盤があると思われる。神奈川県以外の地域でも行政と協働した活動があるようなので、他で培った手法を生かして、団体の本拠地における更なる活動の拡がりを期待したい。
- ・団体のホームページが見当たらないが、今後の活動の幅を広げるためにも、ホームページの充実等が望まれる。
- ・例えば、他団体との連携で、イベントなどを開催して資金を調達する方法もあるのではないかと思った。
- ・活動主体者の学生達が入れ替わっていく中で、団体の中長期的な計画の実現は難しいのではないか。目的達成の指標をどこにするのかが課題だと感じた。



▲特定非営利活動法人ファームパーク湘南による活動報告



▲植樹・山道づくりの現場視察（三ノ宮地区）



▲特定非営利活動法人東海大学地域環境ネットワークによる活動報告



▲親子川の観察会実施現場（鈴川）

以上